言語聴覚科　（2 年次）

2022 年度　シラバス目次

科目名	項
小児科学	2
リハビリテーション医学	5
臨床神経学Ⅱ	10
社会保障制度	12
言語聴覚障害診断学Ⅱ（成人）	19
失語症Ⅲ（評価・訓練・症例検討）	21
失語症Ⅳ（スクーリング、訓練プログラムの作成）	25
高次脳機能障害Ⅱ（評価・訓練・症例検討）	28
構音障害Ⅳ（器質性）	31
嚥下障害Ⅱ（総合・演習）	33
聴覚障害Ⅲ（成人）	36
聴覚障害Ⅳ（各論・成人演習）	38
臨床実習Ⅱ	40
実習報告会・模擬試験	42

科目名	項

学科・年次	言語聴覚科・2 年次
科目名	小児科学
担当者	益田　健史
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義形式。プリント及びパワーポイント資料を活用。
教科書・参考書	講義プリント：標準理学療法学・作業療法学 小児科学第 5 版（医学書院）、 内科学（朝倉書院）、シンプル病理学（南江堂）参照。

授業概要と目的
小児の疾患と障害の特性を理解し、その知識を身につける。 なお、医師として臨床経験のある講師が講義を担当する。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「小児科学概論」 小児の発育と特徴、保健について理解する。	「小児の発育と保健」 小児の発育と特徴、保健について説明することが出来る	益田　健史
2	前期	「感染症」 感染症の全体像を把握する	「感染症の基礎知識」 感染症の全体像を把握し説明できる	益田　健史
3	前期	「小児の感染症」 細菌・ウイルス感染症を中心に、小児に生じる代表的な感染症を理解する。	「小児に特徴的な感染症」 細菌・ウイルス感染症を中心に、小児に生じる代表的な感染症を説明できる	益田　健史
4	前期	「遺伝子疾患と先天異常」 遺伝子の理を知る。	「遺伝子と染色体について」 遺伝子異常・染色体異常を理解し説明できる。	益田　健史
5	前期	「遺伝子疾患と先天異常」 循環器の先天異常を理解する	「先天性心疾患」 先天性心疾患の解剖学的構造・血行動態を理解し説明できる	益田　健史

6	前期	「遺伝子疾患と先天異常」 消化器・呼吸器の先天異常を理解する。	「先天性消化器疾患、呼吸器疾患」 呼吸器系・消化器系の先天異常を理解し説明できる。	益田　健史
7	前期	「先天異常を含まない循環器・呼吸器・消化器疾患」	「心疾患、消化器疾患、呼吸器疾患」 先天異常を含まない各種疾患について理解する。	益田　健史
8	前期	「血液疾患」 血球成分・血漿成分の働きを知り、小児で認められる血液疾患を理解する。	「血液疾患」 血球成分・血漿成分の働きを知り、小児で認められる血液疾患を理解し説明できる。	益田　健史
9	前期	「神経疾患・神経系の先天異常」 神経系の発生学を学び、そこから生じる神経系の先天異常を理解する。	「神経疾患・神経系の先天異常」 神経系の発生学を学び、そこから生じる神経系の先天異常を理解し説明できる。	益田　健史
10	前期	「腫瘍」 小児に特徴的に認められる腫瘍性疾患を理解する。	「小児に好発する腫瘍」 小児に特徴的に認められる腫瘍性疾患を理解し説明できる。	益田　健史
11	前期	「代謝障害」 小児の代謝障害とスクリーニングについて理解する。	「小児で認められる代謝障害」 小児の代謝障害とスクリーニングについて理解し説明できる。	益田　健史
12	前期	「免疫・アレルギー疾患」 人体の免疫システムを知り、免疫の関わる疾患を理解する。	「小児のアレルギー疾患」 人体の免疫システムを知り、免疫の関わる疾患を理解し説明できる。	益田　健史
13	前期	「眼科・耳鼻科的疾患」 小児で認められる眼科・耳鼻科疾患を理解する。	「小児の眼科・耳鼻科的疾患」 小児で認められる眼科・耳鼻科疾患を 理解し瀬悦明できる。	益田　健史
14	前期	「てんかん」 2017 年に大改訂されたてんかんについて理解する。 「まとめ」 ここまでの知識の統合整理	「小児のてんかん」 2017 年に大改訂されたてんかんについて理解し説明できる 「まとめ」 ここまでの知識の統合整理し説明できる。	益田　健史

15	前期	「試験と解説」	「試験と解説」 科目試験を解くことができる。 解説から誤りを理解し訂正できる	益田　健史
成績評価方法		科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。		
準備学習など		プリントの復習。		
留意事項		授業で配布したプリントをファイルして保存する事。		

学科・年次	言語聴覚科　2学年
科目名	リハビリテーション医学
担当者	石田　和人　伊藤　直樹
単位数（時間数）	２単位　（40時間）
学習方法	講義・グループワーク・実技
教科書・参考書	＜教科書＞ ・　石田　　適宜、資料を配布 ・　伊藤　　入門　リハビリテーション概論　第7版　中村　隆一 ＜参考書＞ ・　椿原彰夫（編著）:「ＰＴ・ＯＴ・ＳＴを目指す人のためのリハビリテーション総論」（第３版），診断と治療社. ・　砂原茂一著 :「リハビリテーション」，岩波新書. ・　上田　敏著 :「目でみるリハビリテーション医学」，東京大学出版会.

授業概要と目的
授業概要 リハビリテーションの理念を導入部として，リハビリテーション医学分野で行われている臨床的内容について理解する．講義に際しては，教科書的知識のみならず，最近の動向や実践的なエビデンスも多く紹介できるよう配慮する． 目的 リハビリテーション医学について理解する．

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「リハビリテーションとは何か」 一般目標 ①　リハビリテーションの定義を理解する ②　リハビリテーションの本質を理解する	「リハビリテーションとは何か」 到達目標 ①　リハビリテーションとは何かについて説明できる． ②　リハビリテーション医学と医学的リハビリテーションの違いを説明できる	石田　和人
2	前期	「リハビリテーション医療の流れ」 一般目標 ①　リハビリテーションの流れを理解する． ②　地域リハビリテーションを理解する．	「リハビリテーション医療の流れと地域リハビリテーション」 到達目標 ①　急性期リハビリテーションの目的と内容を説明できる． ②　回復期リハビリテーションの目的と内容を説明できる．	石田　和人

			③　維持期(生活期)リハビリテーションの目的と内容を説明できる. ④　地域リハビリテーションを説明できる.	
3	前期	「病気と障害と国際生活機能分類」 一般目標 ①　病気と障害の違いを理解する ②　国際生活機能分類を理解する	「病気と障害と国際生活機能分類」 到達目標 ①　病気と障害の違いを説明できる ②　国際障害分類を説明できる ③　国際生活機能分類を説明できる	石田　和人
4	前期	「機能評価と日常生活活動」 一般目標 ①　機能評価の在り方を理解する ②　日常生活活動とその評価法を理解する	「機能評価と日常生活活動」 到達目標 ①　評価の流れを説明できる ②　リハビリテーション医学における日常生活活動の重要性を説明できる ③　日常生活活動の評価法について説明できる	石田　和人
5	前期	「多職種への理解と連携　①」 一般目標 ①　リハビリテーションに関連する多職種を理解する ②　多職種連携の重要性を理解する	「多職種への理解と連携　①」 到達目標 ①　理学療法について説明できる ②　作業療法について説明できる ③　義肢装具士について説明できる ④　その他リハ関連職種について説明できる	石田　和人
6	前期	「多職種への理解と連携　②」 一般目標 ①　理学療法実習室の見学を通じてリハビリテーション施設の設備を知る	「多職種への理解と連携　②」 到達目標 ①　理学療法実習室の見学を通じて、一般的なリハビリテーション施設の設備について説明できる ②　理学療法で用いる器具に触れて、その活用法を説明できる	石田　和人
7	前期	「動作障害とその解析および運動学習」 一般目標 ①　運動解析システムを理解する ②　運動学習を理解する	「動作障害とその解析および運動学習」 到達目標 ①　運動解析システムについて説明できる ②　運動学習について説明できる	石田　和人

8	前期	「トランスファーテクニックおよびバイタルサイン」 一般目標 ① トランスファーテクニックを体験し理解する ② バイタルサインの診方と意義を理解する	「トランスファーテクニックおよびバイタルサイン」 到達目標 ① トランスファーテクニック（介助法）について実践し説明できる ② 基本的動作について理解する ③ 杖および車いすの使い方を説明できる ④ バイタルサインの診方を実習し、その意味を説明できる	石田　和人
9	前期	「リハビリテーション医学と研究方法論」 一般目標 ① リハビリテーション医学における研究法を理解する	「リハビリテーション医学と研究方法論」 到達目標 ① リハビリテーション医学における研究の意義を説明できる ② 臨床研究における代表的な研究デザインを説明できる ① 研究および臨床における倫理について説明できる	石田　和人
10	前期	「リハ医学に関する国試対策演習および本講義前半の復習」 一般目標 ① 本講義の総復習 ② リハビリテーション医学に関連した国家試験問題の演習を実践する	「リハ医学に関する国試対策演習および本講義の復習」 到達目標 ① 本講義の総復習 ② リハビリテーション医学に関連した国家試験問題の演習を実践する ③	石田　和人
11	前期	「高齢者に対するリハビリテーション」 一般目標 ① フレイルについて理解する ② サルコペニアについて理解する ③ 認知症について理解する ④ 難聴に対するリハビリテーションについて理解する	「高齢者に対するリハビリテーション 1」 到達目標 ① フレイルについて説明できる ② サルコペニアについて説明できる ③ 認知症について説明できる ④ 難聴に対するリハビリテーションについて説明できる	伊藤　直樹
12	前期	「高齢者に対するリハビリテーション　グループ演習」 一般目標 ① グループで高齢者に対するリハビリテーションについて議論し、具体的な事例を通	「高齢者に対するリハビリテーション　グループ演習」 到達目標 ① 提示された事例に対する問題点を列挙できる ② 事例に対する目標設定や対策を検討	伊藤　直樹

		じて学ぶ	できる ③　グループで模擬カンファレンスを実施し、症例検討を実践する	
13	前期	「脳血管疾患のリハビリテーション」 一般目標 ①　脳血管疾患(脳梗塞､脳出血、パーキンソン病など)の障害像を理解する ②　脳血管疾患のリハビリテーションを理解する ③　装具療法について理解する	「脳血管疾患のリハビリテーション 1」 到達目標 ①　脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、パーキンソン病など）の病態を説明できる ②　脳血管疾患による障害像を説明できる ③　装具療法について説明できる ④　脳血管疾患に対するリハビリテーションの具体例に触れる	伊藤　直樹
14	前期	「脳血管疾患のリハビリテーション　グループ演習」 一般目標 ①　グループで脳血管疾患に対するリハビリテーションについて議論し、具体的な事例を通じて学ぶ	「脳血管疾患のリハビリテーション　グループ演習」 到達目標 ①　提示された事例に対する問題点を列挙できる ②　事例に対する目標設定や対策を検討できる	伊藤　直樹
15	前期	「脊髄損傷および四肢切断のリハビリテーション」 一般目標 ①　脊髄損傷の障害像を理解する ②　脊髄損傷のリハビリテーションを理解する	「脊髄損傷および四肢切断のリハビリテーション」 到達目標 ①　脊髄損傷による障害像を説明できる ②　脊髄損傷に対するリハビリテーションの具体例に触れる ③　四肢切断による障害像を説明できる 四肢切断に対するリハビリテーションの具体例に触れる	伊藤　直樹
16	前期	「運動器疾患のリハビリテーション」 一般目標 ①　運動器疾患（骨折、変形性関節症、関節リウマチ）の障害像を理解する ②　運動器疾患のリハビリテーションを理解する	「運動器疾患と関節リウマチのリハビリテーション」 到達目標 ①　運動器疾患（骨折、変形性関節症、関節リウマチ）の障害像を説明できる ②　運動器疾患のリハビリテーションを理解する	伊藤　直樹

17	前期	「内部障害のリハビリテーション」 一般目標 ① 内部障害（呼吸器、循環器など）疾患の障害像およびリハビリテーションを理解する ② がんのリハビリテーションを理解する	「呼吸循環器疾患のリハビリテーション」 到達目標 ① 呼吸器疾患による障害像を説明できる ② 循環器疾患による障害像を説明できる ③ がんのリハビリテーションについて説明できる	伊藤　直樹
18	前期	「各疾患に対するリハビリテーション　グループ演習」 一般目標 ① グループで講義15～17で行った各疾患に対するリハビリテーションについて議論し、具体的な事例を通じて学ぶ	「各疾患に対するリハビリテーション　グループ演習」 到達目標 ① 提示された事例に対する問題点を列挙できる ② 事例に対する目標設定や対策を検討できる	伊藤　直樹
19	前期	「リハ医学に関する国試対策演習および本講義前半の復習」 一般目標 ① 本講義の総復習 ② リハビリテーション医学に関連した国家試験問題の演習を実践する	「リハ医学に関する国試対策演習および本講義の復習」 到達目標 ① 本講義の総復習 ② リハビリテーション医学に関連した国家試験問題の演習を実践する	伊藤　直樹
20	前期	「まとめと評価」 一般目標 ① 本講義の総括試験 ② 総括試験を通じての復習と総括	「まとめと評価」 到達目標 ① 本講義の総括試験 ② 総括試験を通じての復習と総括	伊藤　直樹
成績評価方法		基本的には、期末試験（100点）で評価します。なお、演習等で簡単な課題を課すこともありますが、それらを提出し、前向きに授業に参加されていることが評価の前提となります。		
準備学習など		準備学習は特に必要ないと思います。リハビリテーション医療の中で、言語聴覚士としての学び以外にも学ぶべき点が多くあります。授業を前向きに取り組んで頂き、必要に応じて、参考書等にも目を通しながら、適宜、復習して頂くことが重要と思います。		
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科　2 学年	
科目名	臨床神経学Ⅱ	
担当者	平野　裕滋	
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	神経内科学テキスト　江藤文夫　飯島節　南江堂	参考書

授業概要と目的
授業概要 理学療法士として中枢神経系障害のリハビリテーション経験のある教員がその経験を活かし中枢神経障害の臨床像を具体的に説明する。 授業目的：中枢神経障害の症状にたいして適切な評価、解釈が出来るようになる

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「排尿機能」 排尿のメカニズムを理解する	「排尿メカニズム」 排尿は多くの神経系を介してコントロールされている。その流れを簡潔に述べられる。	平野　裕滋
2	前期	「変性疾患」 変性疾患群を理解する。	「変性疾患について」 その成り立ち、特徴的な症状や検査所見の概略を述べられる。	平野　裕滋
3	前期	「大脳基底核変性疾患」 大脳基底核に生じる変性疾患を理解する。	大脳基底核変性疾患について」 その成り立ち、特徴的な症状や検査所見の概略を述べられる。	平野　裕滋
4	前期	「中枢神経系」 脳を中心とする神経系の分布を理解する。	「中枢神経系と抹消神経系について」 その病態の違い、検査所見の違いを簡潔に述べることが出来る。	平野　裕滋
5	前期	「脱髄疾患・筋疾患」 異なる病態による臨床症状を理解する。	「脱髄疾患」「筋疾患」について 臨床症状の鑑別の方法やその障害に対するアプローチの概略を述べることが出来る。	平野　裕滋
6	前期	「神経筋接合部疾患」 神経筋接合部疾患について理解する。	「神経筋接合部疾患について」 神経伝達のメカニズムを復習することで疾患の臨床症状を述べることが出来る。	平野　裕滋

7	前期	「脳梗塞１」 脳梗塞について理解する。	「脳梗塞について」 脳血管の分布、脳局在の場所などを総合的に勘案して臨床症状を述べることが出来る。	平野　裕滋
8	前期	「脳梗塞２」 脳出血について理解する。	「脳梗塞について」 脳血管の分布、脳局在の場所などを総合的に勘案して臨床症状を述べることが出来る。	平野　裕滋
9	前期	「脳出血」 脳出血について理解する。	「脳出血について」 脳血管の分布、脳局在の場所などを総合的に勘案して臨床症状を述べることが出来る。	平野　裕滋
10	前期	「脳腫瘍」 脳腫瘍について理解する。	「脳腫瘍について」 脳腫瘍の発症部位や治療方法および臨床症状を簡潔に述べることが出来る。	平野　裕滋
11	前期	「認知症１」 認知症について理解する。	「認知症について」 認知症のタイプや特徴的な症状、治療方法および患者への接し方を。	平野　裕滋
12	前期	「認知症２」 認知症について理解する。	「認知症について」 認知症のタイプや特徴的な症状、治療方法について述べ、患者への接し方を工夫できる。	平野　裕滋
13	前期	「脳性麻痺」 脳性麻痺について理解する。	「脳性麻痺について」 脳性麻痺の発症と発達との関連性を述べることが出来る。	平野　裕滋
14	前期	「頭部外傷・てんかん」 頭部外傷、てんかんについて理解する。	「頭部外傷、てんかんについて」 頭部外傷の合併症や後遺症について述べることが出来る。てんかんの症状や対応方法を簡潔に述べることが出来る。	平野　裕滋
15	前期	「科目試験」 科目試験を通じて神経学の概要について理解する。	「科目試験」 科目試験の問題を解くことができる。	平野　裕滋
成績評価方法		科目試験は 100 点満点で 60 点以上が合格です。国家試験を控えた最終学年としての知識の整理を確認する意味を含めて、国家試験に準じた内容および解答方式で施行・採点します。		
準備学習など		２年間の知識の整理を行い、国家試験のためだけでなく臨床に役立つ応用力を身につけてください。		
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科２年
科目名	社会保障制度
担当者	葛谷桂司
単位数（時間数）	1 単位（24 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	作成資料を配布

授業概要と目的
職業リハビリテーション（就労支援）の業務において障害者、生活困窮者等社会的弱者のカウンセリング、社会保障制度の情報提供、助言、活用の提案、実践を行っている現場職員が担当する。社会保障制度とは、１．医療保険、年金保険を代表とする保険制度２．児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉等で周知されている社会福祉制度３．疾病予防、食糧・水の安全の確保、生活環境の衛生保全を目的とした公衆衛生と大きく分類されている。これらの法が単独で成立しているのでなく、「人が生まれてから、天寿を全うするまで」の間の全てのライフサイクルに関わってくる。本講義では言語聴覚士として各法制度の理解、活用ができること。卒業後、医療・福祉各機関で活躍のために必要な知識を習得することで実践に結び付けたい。現行の社会保障制度を理解することにより１．対象者へ質の高いサービスを提供するために制度を理解する。２.所属する医療・福祉の現場で提供するサービスは社会保障に関する法、社会福祉に関する法によって制定されていることを理解する。３.各法は独立した法でなく、関連していることを理解し活用できるようにする。４.学生自身が社会人、家庭人として、各々の実生活に関係している制度、義務、権利を理解し、卒業後、社会人として、各法の遵守することも目的とする。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「我が国の社会保障制度の概要」 一般目標 社会保障制度の種類を理解する。	「我が国の社会保障制度の概要」 到達目標 ① 社会保険制度の種類を挙げることができる。 ② 社会福祉制度における支援の種類を挙げることができる。	葛谷桂司
2	前期	「医療保険制度」 一般目標 ① 医療保険制度の仕組みを理解する。 ② 医療保険制度の種類を理解する。	「医療保険制度」 到達目標 ① 健康保険制度の加入要件について説明できる。 ② 健康保険、国民健康保険の違いを説明できる。 ③ 健康保険制度の保険料納付、給付に関する内容を説明できる。	葛谷桂司

			④ 国民健康保険制度の加入要件について説明できる。 ⑤ 国民健康保険の制度の保険料納付、給付について説明できる。	
3	前期	「年金制度」 一般目標 ① 年金制度の仕組みを理解する。 ② 国民年金、厚生年金の構成を理解する。	「年金制度」 到達目標 ① 年金制度の目的を説明できる。 ② 国民年金、厚生年金の加入要件、納付について説明できる。 ③ 年金の受給資格について説明できる。 ④ 国民年金、厚生年金の給付の種類を挙げることができる。	葛谷桂司
4	前期	「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」 一般目標 ① 雇用保険制度の目的を理解する。 ② 雇用保険制度の内容を理解する。 ③ 労働者災害補償保険の目的を理解する。 ④ 労働者災害補償保険の内容を理解する。	「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」 到達目標 ① 雇用保険制度の目的を説明できる。 ② 雇用保険の加入要件、事業主の義務を説明できる。 ③ 雇用保険加入労働者の権利、失業給付等の給付要件、給付の種類・内容を説明できる。 ④ 労働者災害補償保険の目的を説明できる。 ⑤ 被災者に対する給付の種類を説明できる。 ⑥ 認定を受けた者の社会復帰に関する内容を説明できる。	葛谷桂司
5	前期	「児童・ひとり親家庭の福祉」 一般目標 児童福祉は妊娠、出産時から始まり、心身とも健全な養育をすることで、子どもは養育される。通常の生活では保育所通園、幼稚園通学から就学の流れで健全な生活が保障されている。 ①児童福祉法で保障されている児童の権利に対しての行政サービスの概要を紹介、保護者の	「児童・ひとり親家庭の福祉」 到達目標 ① 児童福祉法の目的を説明できる。 ② 児童の種類を挙げることができる。 ③ 児童相談所をはじめとする機関の役割を説明できる。 ④ 社会的養護の内容を説明できる。 ⑤ 子ども・子育て支援制度の概要を説明できる。 ⑥ 児童福祉施設の種類・支援内容を挙げることができる。	葛谷桂司

		いない児童の自立に活用できるサービス、児童虐待防止に関わる内容を理解する。 ③ 児童を取り巻く環境のうち、家庭の形態の変化、父又は母親との離死別等によりひとり親となった家庭に対して、「母子及び父子並びに寡婦福祉法」を基に提供する福祉サービス内容理解する。 ④ 家族形態・就労形態等の変化に伴い、「子どもの貧困」の問題がクローズアップされている。これは別単元の「生活保護受給者・生活困窮者の支援」と関連していること。子どものみの問題ではなく、その家族に対する支援内容を理解する。	⑦ 児童虐待に関する定義・責務を説明できる。 ⑧ ひとり親家庭の定義、ひとり親家庭への支援について説明できる。	
6	前期	「母子保健制度」 一般目標 ① 母子保健法の目的を理解する。 ② 生まれる前と生まれた直後の児童および母親の健康のため、保健指導・健康診査・医療サービスを行う制度の内容を理解する。 ③ 乳児を新生児、未熟児、低体重児で分類し、サービス提供を行っていることを理解する。	「母子保健制度」 到達目標 ① 母子健康手帳の申請・交付の内容を説明できる。 ② 訪問指導の内容を説明できる。 ③ 妊産婦の訪問指導､未熟児の訪問指導、未熟児の養育医療について説明できる。 ④ 未熟児の基準を説明できる。 ⑤ １歳６か月児健康診査、３歳児健康診査の内容、事後指導について説明できる。 ⑥ 妊産婦及び乳幼児健康診査について説明できる。 ⑦ 妊産婦高血圧症候群等の療育援護について説明できる。 ⑧ Ｂ型肝炎母子感染事業の内容を説明できる。 ⑨ 先天性代謝異常等検査事業の内容を説明できる。	葛谷桂司

			⑩ マタニティマークをとおした「妊産婦にやさしい環境づくり」の推進について説明できる。	
7	前期	「生活保護制度と生活困窮者の支援」 一般目標 ① 生活保護制度の法的根拠を理解する。 ② 生活保護制度の内容を理解する。 ③ 生活困窮者自立支援法の内容を理解する。 ④ 婦人保護事業の内容を理解する。 ⑤ 災害救助法の内容を理解する。	「生活保護制度と生活困窮者の支援」 到達目標 ① 生活保護法の法的根拠を説明できる。 ② 最低生活保障と自立助長を説明できる。 ③ 生活保護の基本原理を説明できる。 ④ 生活保護の基本原則を説明できる。 ⑤ 生活保護の種類を挙げることができる。 ⑥ 保護の実施機関と保護の実施について説明できる。 ⑦ 被保護者の責務を説明できる。 ⑧ 不正受給、不適正受給対策について説明できる。 ⑨ ワークフェアとソーシャルインクルージョンについて説明できる。 ⑩ 生活保護法に規定されている保護施設の種類とサービスの内容を説明できる。 ⑪ 生活困窮者自立支援法の概要を説明できる。 ⑫ 生活困窮者自立支援法に規定されている支援事業の内容を説明できる。 ⑬ 婦人保護事業の実施機関、実施主体を説明できる。 ⑭ 災害救助法の目的を説明できる。 ⑮ 災害救助の種類を説明できる。 ⑯ 災害救助法に規定されている強制権を説明できる。 ⑰ 日本赤十字社の役割を説明できる。	葛谷桂司
8	前期	「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」 一般目標 ① 障害者基本法の内容を理解する。 ② 障害者差別に関する規定を理解する。	「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」 到達目標 ① 障害者基本法の概要を説明できる。 ② 差別禁止に関する内容を説明できる。 ③ 障害種類（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害）を説明できる。	葛谷桂司

		③　障害の法規定を理解する。 ④　障害者（児）支援に関する行政機関のサービス提供の内容を理解する。 ⑤　障害児の保健福祉について理解する。	④　障害認定と障害者手帳の申請から交付の流れを説明できる。 ⑤　身体障害者更生相談所の業務を説明できる。 ⑥　知的障害者更生相談所の業務の内容を説明できる。 ⑦　精神保健福祉センターの業務の内容を説明できる。 ⑧　児童相談所の障害児に対する業務の内容を説明できる。 ⑨　障害児施設の種類を説明できる。	
9	前期	「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」 一般目標 ①　「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）の内容を理解する。 ②　障害者総合支援法に基づく支援内容を理解する。 ③　障害者虐待の問題を理解する。 ④　発達障害者支援法の内容を理解する。	「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」 ①　「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」(以下障害者総合支援法）の目的、理念を説明できる。 ②　障害者総合支援法に規定されている行政の役割を説明できる。 ③　障害者総合支援法に規定されているサービス受給のための申請から認定の流れを説明できる。 ④　障害者総合支援法に規定されている給付サービスの内容を説明できる。 ⑤　障害者虐待の内容を説明できる。 ⑥　発達障害者支援法の主旨を説明できる。 ⑦　発達障害の定義を説明できる。 ⑧　発達障害者支援法の基本理念を説明できる。 ⑨　発達障害者支援法に規定されている支援の内容を説明できる。 ⑩　発達障害者支援センターの実施主体、利用者について説明できる。 ⑪　発達障害者支援センターの事業の内容を説明できる。 ⑫　発達障害者支援センター内の職員配置について説明できる。	葛谷桂司
	前期	高齢者の保健福祉 一般目標 ①　高齢者福祉の歴史の概要を	「高齢者の保健福祉」 到達目標 ①　現行の介護保険法成立までの変遷を説	葛谷桂司

10		理解する。 ② 介護保険の概要を理解する。 ③ 介護保険における支援対象者、提供サービスついて理解する ④ 高齢者の権利擁護について理解する。 ⑤ 高齢者の虐待とその防止について理解する。 ⑥ 介護予防の内容を理解する。 ⑦ 認知症施策の内容を理解する。 ⑧ 新オレンジプランの内容を理解する。	明できる。 ② 介護保険法創設について説明できる。 ③ 介護保険法の目的を説明できる。 ④ 介護保険法に規定されている保険者・被保険者について説明できる。 ⑤ 介護保険法に規定されている資格取得、喪失について説明できる。 ⑥ 保険事故について説明できる。 ⑦ 要介護状態、要支援状態について説明できる。 ⑧ 要介護、要支援認定について説明できる。 ⑨ 介護保険料の徴収について説明できる。 ⑩ 介護サービス提供までの流れを説明できる。 ⑪ 介護給付の内容を名称ごとに説明できる。 ⑫ 権利擁護の日常生活自立支援事業の内容を説明できる。 ⑬ 高齢者虐待について説明できる。 ⑭ 高齢者虐待の種類を説明できる。 ⑮ 介護保険法に規定されている高齢者福祉施設の種類、内容を説明できる。 ⑯ 介護予防の目的を説明できる。 ⑰ 介護予防サービスの種類を説明できる。 ⑱ 訪問型サービスの内容を説明できる。 ⑲ 通所型サービスの内容を説明できる。 ⑳ 一般介護予防事業の目的を説明できる。 ㉑一般介護予防事業の種類、内容を説明できる。 ㉒認知症施策の流れを説明できる。 ㉓新オレンジプランの基本的な考えを説明できる。 ㉔新オレンジプランの「七つの柱」を説明できる。	

11	前期	社会福祉援助技術 ① 社会福祉援助技術の目的を理解する。 ② 個別援助技術（ケースワーク）の流れを理解する。 ③ ナラティブ・アプロ―の内容を理解する。 ④ 集団援助技術の内容を理解する。 ⑤ 間接援助技術の内容を理解する。 ⑥ 関連援助技術の内容を理解する。 ⑦ 社会福祉援助の検討課題を理解する。	① 社会福祉援助技術の法的根拠を説明できる。 ② 個別援助技術の流れの中でアセスメントから終結までの内容を説明できる。 ③ ナラティブ・アプローチの内容を説明できる。 ④ 集団援助技術の内容を説明できる。 ⑤ コミュニティワークの内容を説明できる。 ⑥ 社会福祉調査法の内容を説明できる。 ⑦ 社旗福祉運営管理の内容を説明できる。 ⑧ 社会活動法の内容を説明できる。 ⑨ 社会福祉計画法の内容を説明できる。 ⑩ 関連援助技術の種類を挙げ、内容を説明できる。 ⑪ 社会福祉援助の課題として、支援対象者との関係、社会との関係を述べることができる。	葛谷桂司
12	前期	試験とまとめ	① 第 11 回までの講義の振り返りを行う。 ② 試験	葛谷桂司
成績評価方法		科目試験		
準備学習など		毎回、講義レジュメと「今日の復習」を配布します。「今日の復習」については自宅で取り組んでください。翌週の講義で回答例を配布します。また提出を求めることもあります。必ず問題を解いておくようにしてください。レポートについては、1 回課題を出す予定です。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科　2 学年
科目名	言語聴覚障害診断学Ⅱ（成人）
担当者	小林　二成・専任教員
単位数（時間数）	2 単位（40 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	教科書・参考図書 言語聴覚療法臨床マニュアル　協同医書出版 言語聴覚士テキスト　医歯薬出版 病気がみえる　メディクメディア 標準失語症検査マニュアル　新興医学出版社

授業概要と目的
授業概要 言語聴覚臨床における知識面と実技面の試験を実施する 授業目的 言語聴覚臨床における知識面と実技面の試験を実施することで、自己の客観的な臨床能力を知り、今後の学習に資することを目的とする なお、言語聴覚士として臨床経験のある教員がその経験を活かし授業を担当する

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「口頭試問、OSCE（実技試験）について」 ・口頭試問、OSCE（実技試験）についての実施方法を理解する	「口頭試問、OSCE（実技試験）について」 ・口頭試問、OSCE（実技試験）についての実施方法を説明できる	小林二成・専任教員
2	前期	「口頭試問、OSCE（実技試験）について」 ・口頭試問、OSCE（実技試験）についての実施方法を理解する ・MMSE、HDS-R 等を理解する	「口頭試問、OSCE（実技試験）について」 ・口頭試問、OSCE（実技試験）についての実施方法を説明できる ・MMSE、HDS-R 等を説明できる	小林二成・専任教員
3-12	前期	「口頭試問、OSCE（実技試験）演習」 ・口頭試問において質問事項に答える	「口頭試問、OSCE（実技試験）の実施」 MMSE,HDR-R 等について理解し実施できる 「標準予防策、リスク管理」「コミュニケーショ技法、駆動介助」について理解し、それぞれについて実践できるようになる。 ・口頭試問において基準レベルを超える解	小林二成・専任教員

			答ができる	
13-20	前期	「口頭試問、OSCE（実技試験）演習」 ・口頭試問において質問答える ・心理検査の実施方法を理解する	「口頭試問、OSCE（実技試験）の実施」 ・口頭試問において基準レベルを超える解答ができる ・SLTA・WAISⅢ・CAT について理解し、実施できるようになる。	小林二成・専任教員
成績評価方法		口頭試問 28 点満点、臨床実技試験点 72、問題集作成の提出課題を 10 点の合計 100 点満点で実施		
準備学習など				

学科・年次	言語聴覚科　２学年	
科目名	失語症Ⅲ（評価・訓練・症例検討）	
担当者	辰巳　寛	
単位数（時間数）	２単位　（50 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 標準言語聴覚障害学　失語症学 藤田　郁代　　医学書院	参考書 高次脳機能障害学　第２版 石合純夫　医歯薬出版株式会社

授業概要と目的
授業概要 失語症リハビリテーション経験のある教員がその経験を踏まえ，一般の臨床現場で行われている失語症の実践的知識と技能，評価実技，治療プログラムの立案と実際，および具体的なリハビリテーション理論と手技について指導する． 授業目的 臨床失語症学に関する応用的知識を習得し、実際の臨床現場で求められる失語症リハビリテーションに関する専門的知識と技能を身につける。 なお、言語聴覚士として臨床経験のある講師がその経験を活かして授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「失語症の訓練と援助」 リハビリテーション過程の全体を把握し，障害の諸側面やチーム連携について理解する．	「失語症の訓練と援助」 全体的なリハビリテーション過程を踏まえた上で，障害の諸側面やチーム連携について，簡単に説明できる．	辰巳　寛
2	前期	「失語症の治療理論と技法１」 古典的失語治療理論と技法について理解する．	「失語症の治療理論と技法１」 古典的失語治療理論と技法について，実践的に説明できる．	辰巳　寛
3	前期	「失語症の治療理論と技法２」 機能再編成法の理論と技法について理解する．	「失語症の治療理論と技法２」 機能再編成法の理論と技法について，実践的に説明できる．	辰巳　寛
4	前期	「失語症の治療理論と技法３」 誤用論的アプローチの理論と技法について理解する．	「失語症の治療理論と技法３」 誤用論的アプローチの理論と技法について，具体的に説明できる．	辰巳　寛

5	前期	「失語症の治療理論と技法４」 認知神経心理学的アプローチの理論と技法について理解する.	「失語症の治療理論と技法４」 認知神経心理学的アプローチの理論と技法について，具体的に説明できる.	辰巳　寛
6	前期	「失語症の治療理論と技法５」 拡大・代替コミュニケーション手段アプローチの理論と技法について理解する.	「失語症の治療理論と技法５」 拡大・代替コミュニケーション手段アプローチの理論と技法について，具体的に説明できる.	辰巳　寛
7	前期	「失語症の訓練適応と予後予測」 失語症の訓練適応と予後予測に関して理解する.	「失語症の訓練適応と予後予測」 失語症の訓練適応と予後予測に関して，簡単に説明できる.	辰巳　寛
8	前期	「後天性症小児失語症１」 後天性小児失語症の定義と症候，臨床像について理解する.	「後天性症小児失語症１」 後天性小児失語症の定義と症候，臨床像について，簡単に説明できる.	辰巳　寛
9	前期	「後天性症小児失語症２」 後天性小児失語症の診断と評価，学習指導，環境調整などについて理解する.	「後天性症小児失語症２」 後天性小児失語症の診断と評価，学習指導，環境調整などについて，簡単に説明できる.	辰巳　寛
10	前期	「スクリーニング演習」 初回面接における失語症のスクリーニング検査について理解する.	「スクリーニング演習」 初回面接時に実施しる失語スクリーニング検査の実際について，具体的に説明できる.	辰巳　寛
11	前期	「演習１」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する.	「Broca 失語の臨床ケース分析」 Broca 失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる.	辰巳　寛
12	前期	「演習２」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する.	「Wernicke 失語の臨床ケース分析」 Wernicke 失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる.	辰巳　寛
13	前期	「演習３」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する.	「伝導失語の臨床ケース分析」 伝導失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる.	辰巳　寛
14	前期	「演習４」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する.	「健忘失語の臨床ケース分析」 健忘失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる.	辰巳　寛

15	前期	「演習５」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する．	「Jargon 失語の臨床ケース分析」 Jargon 失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる．	辰巳　寛
16	前期	「演習６」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する．	「超皮質性感覚失語の臨床ケース分析」 超皮質性感覚失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる．	辰巳　寛
17	前期	「演習７」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する．	「超皮質性運動失語の臨床ケース分析」 超皮質性運動失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる．	辰巳　寛
18	前期	「演習８」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する．	「超皮質性混合失語の臨床ケース分析」 超皮質性混合失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる．	辰巳　寛
19	前期	「演習９」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する．	「全失語の臨床ケース分析」 全失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる．	辰巳　寛
20	前期	「演習 10」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する．	「視床性失語の臨床ケース分析」 視床性失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる．	辰巳　寛
21	前期	「演習 11」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する．	「線条体失語の臨床ケース分析」 線条体失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる．	辰巳　寛
22	前期	「演習 12」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する．	「発達性小児失語の臨床ケース分析」 Broca 失語の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる．	辰巳　寛
23	前期	「演習 13」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する．	「失語・失行・失認合併例の臨床ケース分析」 失語・失行・失認合併例の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練	辰巳　寛

			計画書の立案，訓練の実技ができるようになる.	
24	前期	「演習 14」 SLTA プロフィール分析と検査報告書，訓練計画書の立案について理解する.	「認知症を合併する失語症患者の臨床ケース分析」 認知症を伴う失語症者の SLTA プロフィール分析を行い，検査報告書の作成，訓練計画書の立案，訓練の実技ができるようになる.	辰巳　寛
25	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて失語症の概要を理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことができる。	辰巳　寛
成績評価方法		学科試験にて 100 点満点のマークシート方式（5 択）です.		
準備学習など		言語聴覚士にとって失語症学は必要不可欠な講義です．臨床現場で必須の知識と技能を習得できる内容ですので，積極的に取り組んで下さい．講義終了前後に質問時間を設けますので，積極的に質問してください.		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科　２学年	
科目名	失語症Ⅳ（スクリーニング、訓練プログラムの作成）	
担当者	辰巳　寛	
単位数（時間数）	1 単位　（30 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 標準言語聴覚障害学　失語症学 藤田　郁代　　医学書院	参考書 高次脳機能障害学　第２版 石合純夫　医歯薬出版株式会社

授業概要と目的
授業概要 失語症リハビリテーション経験のある教員がその経験を踏まえ，さまざまな高次脳機能障害を併発している失語症者の臨床評価，および治療プログラムの立案，具体的なリハビリテーション理論と手技について指導する． 授業目的 臨床失語症学に加えて，応用的高次脳機能障害学に関する知識を習得し、実際の臨床現場で経験することの多い臨床ケースをもとに，評価とアプローチの実技を身につける。 なお、言語聴覚士として臨床経験のある講師がその経験を活かして授業を行う

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「失語症検査分析の実際」 標準失語症検査 SLTA のプロフィール解析と病態把握について理解する．	「失語症検査分析の実際」 標準失語症検査 SLTA のプロフィール解析と病態把握について，実践的に説明できる．	辰巳　寛
2	前期	「グループ演習１」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する．	「グループ発表１」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる．	辰巳　寛
3	前期	「グループ演習２」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する．	「グループ発表２」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる．	辰巳　寛

4	前期	「グループ演習３」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表３」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
5	前期	「グループ演習４」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表４」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
6	前期	「グループ演習５」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表５」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
7	前期	「グループ演習６」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表６」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
8	前期	「グループ演習７」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表７」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
9	前期	「グループ演習８」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表８」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
10	前期	「グループ演習９」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表９」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
11	前期	「グループ演習 10」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表 10」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立	辰巳　寛

			案ができるようになる.	
12	前期	「グループ演習 11」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表 11」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
13	前期	「グループ演習 12」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表 12」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
14	前期	「グループ演習 13」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する.	「グループ発表 13」 DVD にて評価を行ったケースについて発表し，カンファレンス形式のディスカッションを行うことで，より良い評価と訓練立案ができるようになる.	辰巳　寛
15	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて失語症の概要を理解する。	「学科試験」 科目試験の問題を解くことができる。	辰巳　寛
成績評価方法		学科試験にて 100 点満点のマークシート方式（5 択）です.		
準備学習など		言語聴覚士にとって失語症学は必要不可欠な講義です．臨床現場で必須の知識と技能を習得できる内容ですので，積極的に取り組んで下さい．講義終了前後に質問時間を設けますので，積極的に質問してください.		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 2 学年
科目名	高次脳機能障害Ⅱ（評価・訓練・症例検討）
担当者	辰巳　寛
単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	教科書 ・標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学　第 2 版 藤田郁代　医学書院 参考書 ・高次脳機能障害のリハビリテーション　第３版 本田哲三　医学書院

授業概要と目的
授業概要 ・高次脳機能障害の評価、リハビリテーション、支援の立案から実施まで指導する。 授業目的 ・適切な評価・診断、リハビリテーション、支援の立案が行えるようになる。 なお、言語聴覚士として臨床経験のある講師がその経験を活かして授業を行う

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「神経心理学検査」 神経心理学的検査の概要を理解する	「神経心理学検査について」 神経心理学的検査名およびその概要が記述できる。	辰巳　寛
2	前期	「知的機能検査」 知的機能検査（WAIS―Ⅳ）について理解する。	「知的機能検査について」 実施方法、評価方法を手引き、資料を見ながら実施できる。	辰巳　寛
3	前期	「知的機能検査」 知的機能査（MMSE、HDS-R、RCPM、ADAS-Jcog、MOCA-J）について理解する。	「知的機能検査について」 実施方法、評価を手引き、資料を見ながら実施できる。	辰巳　寛
4	前期	「注意機能検査」 注意機能検査(CAT、TMT-J)について理解する。	「注意機能検査について」 実施方法、評価を手引き、資料を見ながら実施し、リハビリテーション、支援方法が立案できる。	辰巳　寛

5	前期	「記憶・記銘力検査」 記憶・記銘力検査(日本版 RBMT、WMS-R)について理解する。	「記憶・記銘力検査について」 実施方法、評価を手引き、資料を見ながら実施できる。	辰巳　寛
6	前期	「記憶・記銘力検査」 記憶・記銘力検査（Rey の複雑図形、Benton 視覚記銘力検査,標準言語性対連合学習検査、AVLT）について理解する。	「記憶記名検査について」 実施方法、評価を手引き、資料を見ながら実施できる。	辰巳　寛
7	前期	「記憶障害のリハビリ」 記憶障害に対するリハビリテーション、支援方法について理解する。	「記憶障害のリハビリについて」 検査結果から、症例に即したリハビリテーション、支援方法が立案できる。	辰巳　寛
8	前期	「失行検査」 失行検査（標準高次動作性検査）について理解する。	「失行検査について」 手引き、資料を見ながら実施、検査結果から、症例に即したリハビリテーション、支援方法が立案できる。	辰巳　寛
9	前期	「失認検査」 失認検査（標準高次視知覚検査等）について理解する。	「失認検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検査結果から、症例に即したリハビリテーション、支援方法が立案できる。	辰巳　寛
10	前期	「視空間認知」 視空間認知（半側空間無視等）機能検査、(BIT 行動無視検査)について理解する。	「失認検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検査結果から、症例に即したリハビリテーション、支援方法が立案できる。	辰巳　寛
11	前期	「失認検査」 失認検査（視覚認知、左右障害、手指失認、失算等）について理解する。	「失認検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検査結果から、症例に即したリハビリテーション、支援方法が立案できる。	辰巳　寛
12	前期	「前頭葉機能検査」 前頭葉機能検査（新修正 WCST Stroop Test、FAB 等)、遂行機能検査（BADS）について理解する。	「前頭葉機能検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検査結果から、症例に即したリハビリテーション、支援方法が立案できる。	辰巳　寛
13	前期	「前頭葉機能検査」 前頭葉機能検査（新修正 WCST Stroop Test、FAB 等)、遂行機能検査（BADS）	「前頭葉機能検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検査結果から、症例に即したリハビリテーション、支援方法が立案できる。	辰巳　寛

		について理解する。		
14	前期	「認知症の評価」 認知症に関する神経心理学的側面からの評価法を用いた評価について理解する。	「認知症の評価について」 手引き、資料を見ながら実施し、検査結果から、症例に即した、支援方法が立案できる。	辰巳　寛
15	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて高次脳機能障害リハビリテーションを理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことがでる。	辰巳　寛
成績評価方法		学科試験（マーク式）にて 100 点満点で評価する。		
準備学習など		高次脳機能障害 I で学んだ基礎的内容をしっかり復習しておく。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科　2 学年	
科目名	構音障害Ⅳ（器質性）	
担当者	井上知佐子	
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書　口蓋裂言語のスピーチセラピー　口腔保健協会	参考書　　言語聴覚療法シリーズ 8　器質性構音障害（建帛社）

授業概要と目的
授業概要 器質性構音障害の評価訓練の経験のある教員が、その障害の機序や臨床で実施される評価及び訓練について指導する。 目的 器質性構音障害の定義、機序、症状について理解し、これに基づいて評価・訓練を実施できるようになる。 なお、言語聴覚士として臨床経験のある講師がその経験を活かして授業を行う

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「概論」 構音障害の定義について理解する。	「構音障害・主に器質性構音障害の定義と機序」 構音障害の定義、種類、特に器質性構音障害の機序について理解し説明できる。	井上知佐子
2	前期	「口蓋裂言語について」 器質性構音障害の主となる口蓋裂言語について理解する。	「口蓋裂言語　鼻咽腔閉鎖機能と閉鎖不全について」 口蓋裂について、鼻咽腔閉鎖機能及び閉鎖不全が構音にどう影響を及ぼすかを理解し説明できる。	井上知佐子
3	前期	「評価」 口蓋裂言語の評価の概要、検査の種類について理解する。	「鼻咽腔閉鎖機能検査の種類」 鼻咽腔閉鎖機能検査の種類とその検査を行う目的を理解し説明できる。	井上知佐子
4	前期	「評価」 口蓋裂言語の評価の概要、検査の種類について理解する。	「口蓋裂言語検査」 言語聴覚士が行う口蓋裂言語検査の概要について理解し説明できる。	井上知佐子
5	前期	「評価」 口蓋裂言語の評価の概要、検査の種類について理解する。	「構音障害の種類と特徴」 構音障害の種類・特徴について理解・説明できる。	井上知佐子

6	前期	「評価」 口蓋裂言語の評価の概要、検査の種類について理解する。	「異常構音の特徴」 各異常構音の定義と特徴について説明できる。	井上知佐子
7	前期	「演習」 臨床現場で必要な技術を身につける。	「口蓋裂言語検査」 口蓋裂言語検査のＤＶＤを視聴し手順を説明できる。	井上知佐子
8	前期	「演習」 臨床現場で必要な技術を身につける。	「口蓋裂言語検査」 実際に言語検査の手順を理解し実施できる。	井上知佐子
9	前期	「演習」 臨床現場で必要な技術を身につける。	「新版構音検査」 構音検査の手順を理解し実施できる。	井上知佐子
10	前期	「演習」 臨床現場で必要な技術を身につける。	「新版構音検査」 検査結果のまとめ方を理解し説明できる。	井上知佐子
11	前期	「口蓋裂言語の治療・訓練」 口蓋裂言語に対する治療と訓練内容を理解する。	「鼻咽腔閉鎖不全に対する治療」 外科的治療、補綴的治療について理解し説明できる。	井上知佐子
12	前期	「口蓋裂言語の治療・訓練」 口蓋裂言語に対する治療と訓練内容を理解する。	「構音訓練」 構音障害に対する言語訓練を理解し説明できる。	井上知佐子
13	前期	「腫瘍による構音障害」 腫瘍による構音障害に対する治療と訓練内容を理解する。	「腫瘍による構音障害の特徴」 腫瘍による構音障害の特徴を理解し説明できる。	井上知佐子
14	前期	「腫瘍による構音障害の検査・訓練・演習」 臨床現場で必要な技術を身につける。	「評価・訓練」 評価の種類・方法を理解し説明できる。	井上知佐子
15	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて構音障害Ⅳの概要について理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことができる。	井上知佐子
成績評価方法		学科試験。100 点満点で行います。○×20%、穴埋め 30%、記述式 50%。		
準備学習など		1 年時に学習した構音障害に関連する内容は目を通しておいてください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科　２学年	
科目名	嚥下障害Ⅱ（総合・演習）	
担当者	西脇　克浩	
単位数（時間数）	2 単位（40 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	参考書：脳卒中の摂食嚥下障害　藤島一郎　著 医歯薬出版株式会社	参考書：

授業概要と目的
授業概要 病院で摂食嚥下リハビリを行っている講師が、摂食嚥下のメカニズムから幅広い障害像の説明　また実際に臨床現場で行われている評価、訓練方法の指導 授業目的 摂食嚥下障害について理解し、根拠に基づいた現場で困らない知識、技能の習得を手助けする 総合病院での臨床実体験やそこから学んだことを解りやすく講義で伝えていく なお、言語聴覚士として臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「摂食嚥下障害について」 摂食嚥下についての解剖生理	「摂食・嚥下機能についての基礎知識」 嚥下機能の正常メカニズムについて理解することができる	西脇　克浩
2	前期	「演習」 臨床現場において必要な技術・心構えを身につける	「感染対策」適切な感染予防策をみにつける「増粘剤の使用方法実践」増粘剤を適切に使用できるようになる「食べさせられる側の体験をする」食事介助される側の体験をすることで患者に対しての接し方を学ぶ	西脇　克浩
3	前期	「摂食嚥下障害について」 摂食嚥下障害への理解を深める	「嚥下モデルと各期の障害」 嚥下モデルの理解と、どのような障害が起こりうるかの把握ができるようになる	西脇　克浩
4	前期	「演習」 臨床現場で行われている　スクリーニング検査を実施できる様になる	「スクリーニング」 正しいスクリーニング手技を身につけることができる　実習で使用できる嚥下スクリーニング用紙の作成ができる	西脇　克浩

5	前期	「摂食嚥下障害について」 摂食嚥下障害各病期に対しての対応の違いについて理解する	「各期における嚥下障害」急性期～回復期～生活期～緩和ケア等それぞれの病期における対応方法がある事を知り摂食嚥下障害をより具体的にイメージできるようになる	西脇　克浩
6	前期	「演習」 頚部聴診法について 聴診に必要な技術をみにつける	・聴診器の使い方について理解する ・正常例の嚥下音を聴取しておく ・様々な異常嚥下音を聴取し、評価にどう活かしていくのかを理解できる	西脇　克浩
7	前期	「摂食嚥下障害について」 脳血管疾患だけで無く様々な原因で起こり得る嚥下障害を理解する	「嚥下と加齢　嚥下障害の諸因子」 癌による嚥下障害や加齢変化やサルコペニア等様々な因子が加わった場合に起こる嚥下障害を考えることができる	西脇　克浩
8	前期	「呼吸循環についての基礎知識」 呼吸循環についての基礎知識を理解することができる 「気管切開患者に対しての介入方法」	「呼吸循環について」言語聴覚士が呼吸器リハビリテーションを算定できるようになることを受け、嚥下と関わりの深い呼吸循環の基礎に触れておく「気管切開に対しての介入方法」気管切開患者への介入方法が理解できる	西脇　克浩
9	前期	「嚥下造影検査について」 VF 検査の概要を理解することができる	画像の見方、評価の方法について理解ができる	西脇　克浩
10	前期	「演習」 VF 検査の評価方法を身につける	実際の VF 検査画像をみて評価をすることができるようになる	西脇　克浩
11	前期	「VE 検査について」 VE 検査の概要の理解をする	画像の見方、評価の方法について理解ができる	西脇　克浩
12	前期	「演習」 VE 検査の評価方法を身につける	実際の VE 画像をみて評価をする事ができるようになる	西脇　克浩
13	前期	「訓練について」 嚥下間接訓練についてとその理論を説明　理解する	「間接訓練について」 ・病態に合わせて実施される間接訓練について理解をすることができる	西脇　克浩
14	前期	「演習」 嚥下間接訓練を実際に行う	「間接訓練実技」 間接訓練の方法を実技により身につける	西脇　克浩
15	前期	「訓練ついて」 嚥下直接訓練についてのその理論を理解する	「直接訓練について」 病態に合わせて実施される直接訓練について理解をすることができる	西脇　克浩

16	前期	「演習」 嚥下直接訓練を実際に行う	「嚥下直接訓練実技」 実際に直接訓練を実施し、訓練方法の身につける	西脇　克浩
17	前期	「総合演習」 現場で役立つ評価・訓練選択の方法を身につける	「グループ演習　発表」 周辺情報　VF 画像などを確認しグループで評価、訓練計画までを実施する　グループ内での話し合いで総合的な症例検討の力を身につける	西脇　克浩
18	前期	「総合演習」 現場で役立つ評価・訓練選択の方法を身につける	「グループ演習　発表」 評価を行った患者についてグループで発表する。質疑応答を繰り返すことで様々な視点からの評価、訓練方法の検討を行う	西脇　克浩
19	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通して摂食嚥下障害リハビリテーションについての理解を深める	「科目試験とまとめ　」 科目試験で合格する	西脇　克浩
20	前期	「科目試験解説」 試験についての解説を行い問題に対しての理解を深める	「科目試験解説」 科目試験の解答ができるようになる	西脇　克浩
成績評価方法		学科試験にて 100 点満点で 60 点は○×式 40 点は記述式です。記述式は必要な語が含まれない場合に減点する方式で採点		
準備学習など		摂食嚥下障害に関する知識は広範囲にわたります。できるだけコンパクトに解りやすく伝えていけるようにしますので積極的な取り組みを望みます。毎時間質問の時間を設けますので解らないことはどんどん質問して下さい。		
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科・2 学年
科目名	聴覚障害Ⅲ（成人）
担当者	森河孝夫
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	喜多村健　編著　言語聴覚士のための聴覚障害学　医歯薬出版

授業概要と目的
聴覚障害成人のリハビリテーションに必要な知識や技術を学ぶ。 なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「難聴疾患 1」 臨床活動に必要な難聴疾患の知識を学ぶ	「伝音難聴を生じる疾患」 伝音難聴の性質を説明できる。 各種伝音難聴疾患の症状、病態、治療について説明できる。	森河孝夫
2	前期	「難聴疾患 2」 臨床活動に必要な難聴疾患の知識を学ぶ	「感音難聴を生じる疾患」 感音難聴の性質を説明できる。 各種感音難聴疾患の症状、病態、治療について説明できる。	森河孝夫
3	前期	「難聴疾患 3」 臨床活動に必要な難聴疾患の知識を学ぶ	「その他の難聴疾患と症候群」 後迷路性難聴の性質を説明できる。 各種症候性難聴と非症候性難聴について、症状の特徴、遺伝形式が説明できる。	森河孝夫
4	前期	「成人聴覚障害者の概要」 成人聴覚障害者の現状と言語聴覚士との関わりについて学ぶ	「統計と障害の性質」 聴覚障害者の統計データの概要を説明できる。 先天ろう者、難聴者、中途失聴者、老人性難聴者の性質やコミュニケーションについて説明できる。	森河孝夫
5	前期	「中途失聴者の臨床」 言語聴覚士が関わることの多い中途失聴者に対する臨床活動の	「発症後の各時期とリハビリテーション」 発症初期から各時期の臨床活動の内容と方法について説明できる。	森河孝夫

		内容を学ぶ	読話の指導と人工内耳に関する臨床活動について説明できる。	
6	前期	「その他の難聴の臨床」 難聴者のニードと臨床活動について知る 老人性難聴者の特性や生活環境に応じた臨床活動について学ぶ	「難聴者、老人性難聴を中心にした対応」 難聴者に必要となりやすい補聴器調整や装用指導、コミュニケーション指導、構音訓練の方法について説明できる。 老人性難聴の臨床活動における補聴器指導と環境調整の方法について説明できる。	森河孝夫
7	前期	「情報保障と補助機器」 聴覚障害者に対する情報保障の方法と実際について学ぶ 各種補助機器の仕組みと用途、使用法について学ぶ	「聴覚障害者用各種情報保障と補助機器」 情報保障として用いる手話通訳、要約筆記、ノートテイク、字幕の方法と実際について説明できる。 テレコミュニケーションの方法と補助機器について説明できる。 屋内信号装置その他の補助機器の用途や使用法を説明できる。	森河孝夫
8	前期	「まとめ・科目試験」	「全体の総括と科目試験」	森河孝夫
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科・2 学年
科目名	聴覚障害Ⅳ（各論・成人演習）
担当者	森河孝夫
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	「改訂　聴覚障害Ⅰ基礎編」「改訂　聴覚障害Ⅱ臨床編」　山田弘幸編著　建帛社

授業概要と目的
聴覚障害のリハビリテーションに携わる上で必要な知識や技術とその応用を学ぶ。 なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前期	「手話について」 手話の種類と特徴について知る 日本手話とろう文化を知る 日本語対応手話の表現法を知る	「手話の種類と表現方法」 手話の種類と特徴を説明できる。 日本語対応手話で表現する方法を説明できる。	森河孝夫
2	前期	「手話演習 1」 簡単な文章の手話による表現を学ぶ	「手話で表現してみる」 簡単な文章を手話を使って表現できるようになる。	森河孝夫
3	前期	「手話演習 2」 簡単な文章を手話で表現することを覚える	「手話表現を覚える」 簡単な文章の手話による表現を記憶して行えるようになる。	森河孝夫
4	前期	「手話実技」 手話を用いた発表を行う	「手話を使ってみる」 手話を用いて決まった内容を伝えられる。	森河孝夫
5	前期	「読話について」 読話の性質と限界について知る 読話による理解の方法について知る 「読話訓練」 読話訓練の方法を知る。	「読話の性質」 同口形異音と弁別できる口形の数を説明できる。 読話による理解に必要な要素が分かる。 「読話訓練の内容と進め方」 読話訓練の内容と実践的訓練の行い方を説明できる。	森河孝夫
6	前期	「読話訓練計画」 読話初心者に対する訓練計画を作成する。	「模擬読話訓練の計画立案」 難易度を考慮した訓練計画が作成できる。	森河孝夫

7	前期	「読話訓練の実施」 学生同士で模擬訓練を実施する	「模擬的読話訓練を実施する」 計画に基づいて読話訓練が実施できる。	森河孝夫
8	前期	「人工内耳マッピング」 人工内耳マッピングの具体的実施方法を知る	「人工内耳マッピング操作と手順」 マッピング操作の概要を把握できる。 マッピングの手順を説明できる。	森河孝夫
9	前期	「人工内耳マッピング」 人工内耳マッピングの具体的実施方法を知る	「人工内耳マッピング操作と手順」 マッピング操作の概要を把握できる。 マッピングの手順を説明できる。	森河孝夫
10	前期	「模擬症例の検討 1」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「軽度難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	森河孝夫
11	前期	「模擬症例の検討 2」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「中等度難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	森河孝夫
12	前期	「模擬症例の検討 3」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「高度難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	森河孝夫
13	前期	「模擬症例の検討 4」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「重度難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	森河孝夫
14	前期	「模擬症例の検討 5」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「高齢難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	森河孝夫
15	前期	まとめ・科目試験」	「全体の総括と科目試験」	森河孝夫
成績評価方法		科目試験（40%）、実技試験(20%)、レポート(40%)		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科　2 年	
科目名	臨床実習Ⅱ	
担当者	実習指導者・小林　二成	
単位数（時間数）	11 単位（440 時間）	
学習方法	臨床実習	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚療法臨床マニュアル　協同医書出版社	参考書

授業概要と目的
授業概要 臨床現場で規定以上の経験年数を持つ言語聴覚士の指導の下、言語聴覚療法の実際を学ぶ 授業目的 臨床実習指導者の指導・監督のもとに言語聴覚療法の評価・指導・報告書の書き方を習得する。 言語聴覚士 5 年以上経験者が担当者として実習を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
55 日 2 施設	通年	「臨床実習見学実習」 学校で学んだ言語聴覚障害関連の検査・評価方法および訓練方法の知識や理論について，実際の臨床の場で実践し、習得する。 学習した理論・方法等について，実際に対象者のニーズに結びつけ，理論と実際との差を認識しながら，治療者としての能力を総合的に養う。 リハビリテーション・スタッフとしての立場を自覚し，チーム・アプローチのあり方を把握する。	各患者様に必要な検査を選択することができる 検査の結果から言語聴覚障害のプロフィールを説明できる 評価をもとに適切な指導計画を立てることができる 指導計画をもとに、指導を行うことができる 指導の様子、患者様の反応をみながら指導を見直すことができる 指導経過をまとめることができる チームアプローチに必要なことを説明できる。 チームアプローチの重要性を念頭において行動することができる	

		症例報告書を作成できる	症例報告書を作成することができる	
成績評価方法		指導者からの評価表を参考にし、出席・デイリーノート・症例報告書・実習態度などで評価する		
準備学習など		各科目の復習をしておくこと		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科　2 学年	
科目名	実習報告会・模擬試験	
担当者	小林　二成・専任教員	
単位数（時間数）	2 単位 40 時間	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士テキスト　医歯薬出版	参考書　なし

授業概要と目的
授業概要 国家試験形式の模擬試験をする。 臨床実習でまとめた「症例報告書」をもとに実習報告会をする。 授業目的 模擬試験を通して現在の自分の実力を知り、国家試験に備え学習する。 臨床実習で学んだ事柄を皆で共有し、専門的視点を育てる。なお、言語聴覚士として臨床経験のある教員がこの講義を担当する。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	通年	「模擬試験①」 国家試験の過去問題から 200 問を出題する。	「模擬試験①」 120 点（6 割）以上の得点を取る。	専任教員
2	通年			
3	通年			
4	通年			
5	通年	「模擬試験②」 国家試験の過去問題から 200 問を出題する。	「模擬試験②」 120 点（6 割）以上の得点を取る。	専任教員
6	通年			
7	通年			
8	通年			

9	通年	「模擬試験③」 国家試験過去問題以外から 200 問を出題する。	「模擬試験③」 120 点（6 割）以上の得点を取る。	専任教員
10	通年			
11	通年			
12	通年			
13	通年	「模擬試験④」 国家試験過去問題以外から 200 問を出題する。	「模擬試験④」 120 点（6 割）以上の得点を取る。	専任教員
14	通年			
15	通年			
16	通年			
17	通年	「実習報告会」 臨床実習で作成した「症例報告書」の内容を発表し、専門的視点を育てる。	「実習報告会」 症例報告を通して実習の成果を発表する。 専門的視点から討論できる。	専任教員
18	通年			
19	通年			
20	通年			
成績評価方法		4 回の模擬試験　800 点、実習報告会　100 点、合計 900 点中 540 点（6 割）以上を合格とする。 全 20 コマ中 6 コマを超えて欠席すると単位を修得できない。		
準備学習など		国家試験過去問題を勉強すること		
留意事項		特になし		